

## 君津市公民館等再整備基本計画住民説明会(周南地区)

### 1. 実施概要

日 時:令和6年9月25日(水) 午後6時30分から午後7時45分

会 場:周南公民館 講堂

参加者:27名

出席者:

君津市			
市民生活部			村越部長、開田次長
		地域づくり課	正源課長、金綱係長
教育委員会	教育部		丸部長
		生涯学習文化課	塚越課長、平野主幹
		学校教育課	諏方副参事兼課長
	教育機関	中央図書館	高橋館長
企画政策部		公共施設マネジメント課	君島課長
NiX JAPAN株式会社(委託事業者)			

配布資料:

- ・君津市公民館再整備基本計画について(周南地区)説明資料
- ・君津市公民館等再整備基本計画【概要版】(周南地区)
- ・感想シート

### 2. 議事概要

#### (1) 開会

市民生活部 村越部長から開会挨拶

#### (2) 君津市公民館等再整備基本計画について

事務局から説明

#### (3) 質疑応答

参加者:周南中学校のプール跡地に公民館を建てるとのことだが、説明を聞いただけではイメージが浮かばない。中学校との位置関係や、どこまでが公民館敷地になるのか等、詳細を伺いたい。

事務局:今後の検討により変わる可能性もあるが、現段階ではプールとテニスコートも含めて再整備のゾーニングを検討しているところである。テニスコートは、指導のしやすさ等の使い勝手を考慮して、同じ向きに3面並べるレイアウトを考えている。

参加者:公民館を新たに整備しつつ、テニスコートを3面確保することは可能なのか私は懐疑的である。

もう1点、講堂の機能で「集会や講演会等の利用として地域住民が集える十分なスペースの確保」とあるが、それを実現し得る規模が「160㎡」であるという根拠はあるか。私は少なくともこの倍以上の面積でなければ、講堂として必要な機能を発揮できないと考える。また、昨年のワークショップでは「バレーボールができる程度の広さが必要」という意見もあったが、基本計画ではなぜ「卓球等」として縮小されているのか。

事務局：1点目のテニスコートについて、現時点ではコートをグラウンド側に並べる配置で3面が収まる想定である。

2点目に関して、「地域住民が集える」機能については、世代等関係なく誰もが気軽に集える場所として、予約が不要なロビーの方にそうした機能を持たせることを考えている。

参加者：2点目として回答された機能は、基本計画には「講堂」が発揮するものと位置づけられているが、いかがか。

実際に利用者からは、地区文化祭で出し物をするには講堂のステージは狭いといった意見が挙がっている。また、屋内スポーツは卓球程度しかできない。こうした現状があるから、ワークショップでは「バレーボールができる程度の広さが必要」という意見が出たはずなのに、なぜ新しい公民館の講堂が、現在と同じ広さの160㎡になるのか。

せっかく新しく作るのだから、目的や機能を十分に果たせる造りであるべきだ。

事務局：現状の広さで問題なく集えているとの判断のもと基本計画を検討した。

参加者：では、去年のワークショップは何だったのか。ワークショップでは講堂はもっと広いスペースが必要との意見があったはずである。それがなぜ、現状の広さで十分という結論になったのか。今、この広さしかないから、現状程度のことしか出来ていないだけであって、それを「現状で問題ない」と判断されては、何も良くならない。

本事業では中学校敷地内に公民館を整備するが、これは昨今よく見られる学校の空き教室等の有効活用といった目的ではなく、地域の核となる公民館を再整備しようという点が重要ではないのか。であれば、交流や防災、文化振興等の機能を十分に発揮できる規模が必要であり、こうした考えを持って検討してもらいたい。

そして私が最も懸念しているのは、中学校敷地に公民館を整備することにより、互いの活動に支障や制約が生じることである。

実現可能かはわからないが、周南中学校敷地ではなく、宮下公園の山林部分を使ってはどうか。整備する金額が変わらないのであれば、その方が十分なスペースを確保できるのではないか。

事務局：「君津市公民館等再整備基本計画」は、「君津市公共施設等総合管理計画」（平成29年3月策定）に基づき策定したものとなっている。

市の公共施設（ハコモノ）の多くが人口の多い時代に作られており、人口減少下の現代では規模が過剰であるばかりでなく、老朽化により維持管理費が増大している。こうした現状と将来の人口減を踏まえ、「君津市公共施設等総合管理計画」ではハコモノの床面積を20%削減することを目標としている。これは、ただ縮小するのではなく、機能面では充実させる「縮充」の考えのもと、公共施設の量の適正化を図ろうとするものである。

こうした背景から、公民館の再整備においては規模を現状より大幅に拡大することは難しいが、機能面の充実を図ることによって、地域の皆様のご意見に答えていきたいと考える。

また、予算は確かに限られているが、PPP/PFIとして、民間資金を活用した

事業推進方策も検討しているところである。

本日も説明した内容はあくまで「基本計画」であり、以上の考え方のもといただいたご意見への対応を検討・整理し、改めて回答させていただきたい。

事務局：宮下公園に公民館を建ててはどうかというご意見について、当初は宮下公園も候補地としていたが、敷地の一部が急傾斜地になっていることや、都市公園であることによる各種制約条件等から、整備実現のハードルが高いと判断した。周南中学校敷地内に決定した経緯としては、昨年のワークショップにおいて、小中学校の近くにあつて、わかりやすく、行きやすい場所、といったご意見を参考に検討した。

ご指摘のとおり、学校行事・公民館行事に少なからず影響が出る面もあるかと思うが、学校と公民館とが連携しやすくなる面もあると考え、良い方向に作用するよう検討したい。

参加者：今の回答は後出し的な説明に聞こえた。ワークショップだけでなく、例えばSNSやインターネット掲示板等のデジタルツールを活用し、行政と市民のコミュニケーションを活発にすることが必要だったのではないか。

以前、君津市人口ビジョンに触れる機会があり、これからは将来の人口バランスを見据えた考え方が必要だと感じた。いろいろな意見から最大公約数をとっていくことを、地域と一緒に考えていく流れができればよいと思った。質問だが、中学校と公民館との機能面での連携について、構想していることはあるか。また、例えば図書室のように中学校にも公民館にもある部屋は、明確に機能を分けるのか、それとも統合するのか、方向性があればよいが知りたい。

事務局：連携の構想について、まだ中学校と協議できておらず、現段階で具体的なことはお話しできないが、公民館としては、例えば予約の取れない部屋を中学校で活用することや、生徒の放課後の自習場所としてロビーを活用してもらうことなど、施設の共有ができればと考えている。

参加者：そういった施設の使い方についても、LINEのオープンチャット等を活用して地区の住民と意見交換できれば、事業に対する理解がもっと深まると思われる。

以前私が勤めていた会社での例だが、老人ホームにおいて、施設のロビーを開放的な造りにして、児童・生徒が放課後に立ち寄って遊べる場所としていた。こうした柔軟で、効率的な考え方もあると良いのではないか。

最後に3点ほどお願いしたい。ハード面として、インターネット環境が不可欠であるのはもちろん、今の時代は一人でスマートフォンとタブレットといった複数台の端末を持つことも珍しくなく、こうした点（同時接続台数）を踏まえたインターネット環境を整備することが必要である。

災害対策も検討してほしい。例えば、スターリンク等の衛星電話を備えるなど。

ソフト面として、公民館に来やすい、施設を予約しやすいといったことがすごく重要だと思う。防災の観点からハードとソフトをセットで考えることも必要と考える。例えば、子ども食堂の施設（ハード）について、災害時には炊き出しチームとして機能する協定を結ぶ（ソフト）など。こういった、ソ

フト面の議論やアイデア出し等をもっとできるとよい。

公民館は地域のハブとして、地域において安心できる場所だと思う。そうしたとき、例えば子どもだけで利用できるよう、公民館までの足（アクセス）を確保する必要があると考える。シェアドライバーや、電動キックボード等のモビリティの導入を検討してはどうか。

参加者：敷地について、公民館を建てた上でテニスコートも3面確保することは、やはりスペース的に不可能ではないかと考える。他の施設の例で、バレーボールとバスケットを同時利用できる体育館があるが、実際にはコート周囲の余白スペースが少なく、怖くて公式大会ができない。

子どもたちの安全を考え、コート周囲の余白スペースも考慮してレイアウトを検討する必要がある。

ワークショップのやり方について、先ほどの回答にあったような前提条件の説明も無く、自由に意見を言わせておきながら、経過報告も無くいきなり基本計画が策定され、ワークショップで意見した内容は予算が無いからできません、というやり方は良くないと思う。

公共施設の床面積を20%削減、とのことだが、学校の統廃合で20%近くまで削減されたのではないか。

君津市で生まれ育った人が将来も住み続け、君津市に住んでよかったと思えるまちにするには、ある程度の社会インフラ整備は必要である。こうしたことを市民とともに考えるというスタンスで事業を進めてもらいたい。

事務局：ワークショップの際に市の上位計画等の前提条件に関する説明ができていなかったことについて、まずお詫び申し上げます。

テニスコートのレイアウトは、コート周囲の余白スペースも考慮して検討しているが、生徒が安心安全に部活動をできるよう、しっかりと検討していきたい。

一定の社会インフラが必要ということは市も重々承知しているところで、床面積20%削減については、当然、今ある施設を有効に活用するという大前提があり、周南地区においては市民文化ホールや内みのわ運動公園の市民体育館等の代替施設もあるため、そういった観点からも検討を進めているところである。

市としても、将来にわたり君津市に住み続けていただくため、安心安全な行政サービスを持続的に提供していけるよう「君津市公共施設等総合管理計画」に従って整備を進めていくところである。

学校の統廃合は、中山間地域の施設が多く、市街地よりも建物の規模が小さいこと、旧秋元小学校の様にリノベーションし活用していることもあり、床面積20%削減にはまだ届いていない状況であると認識している。

参加者：特定の方しか公民館を利用していない、ということが現状の課題だと考えるため、若者等にも利用してもらえるような再整備が必要と思う。民間活力の導入を検討されているとのこと、敷地内に利便施設を整備し、にぎわいを創出することについて、検討が進んでいれば教えてください。

事務局：現在、PPP/PFIの導入可能性調査を進めているところである。

PPP/PFIは民間企業の提案や資金を活用して施設を建設するという事業ス

キームになっており、事業の採算性に左右される面もあるため、民間活力導入を確約できるものではないが、可能性があれば積極的に活用していきたい。これからサウンディング調査を行って事業者意見を聞きつつ判断したいと考えているところである。

参加者：敷地面積は限られているが、市民の暮らしに少しでも役立つような、気軽に公民館に立ち寄れるような仕組みができるよう、ぜひお願いします。  
周南公民館の再整備は難しいだろうというスタート地点だったところを議員も一生懸命頑張って再整備計画まで漕ぎ着けた背景があり、君津市には頑張ってもらいたい。  
この説明会について、意見を受け止めていただきたい。また、せっかくいろいろな方が来ているのに、発言しにくい雰囲気である。みんなで和やかに将来を語れるような雰囲気づくりとして、椅子や机の並べ方を工夫する等、次回からは検討してもらいたいと思う。

#### (4) 閉会

市民生活部 村越部長から閉会挨拶

—以上—